釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター

月刊温根内通信

2025年11月号　№.350　　11月15日（土）発行

お前は　何者だ？

巡視を終えてビジターセンターへと戻る途中、仏像のように固まりこちらを見つめる動物…冬毛に変わったエゾタヌキでした。
しばしにらめっこが続いた後、今度は鼻をクンクンさせて匂いを嗅ぐ仕草を見せます。匂いでこちらが何者かを探っていたようです。
結局こちらの正体がわかったのかわからなかったのか、そろそろと木道下の隙間に入っていきました。

☆☆☆　温根内木道周辺で見られた自然（10/15～11/14）　☆☆☆

【ドクゼリの実】
セリ科　毒芹
線香花火のような花期の形跡を残し、先端に実を付けています。茶色いのでつい見逃しがちです。

【ホソバアカバナの実】
アカバナ科　細葉赤花
果実が裂開し、中から整然と並んだ種子が見えています。種子には綿毛が付き、風によって散布されます。

【ガマの根茎】
ガマ科　蒲
綿菓子のような果穂の目立つガマ。水面には根茎と来年芽吹くタケノコのような新芽が見えていました。

【エゾリス】　リス科　蝦夷栗鼠
温根内では滅多に見ることがないリスの仲間。今年はミズナラのドングリが不作のせいか、湿原まで下りてきてハンノキの実などを探していたようです。こちらを気にしつつも毛づくろいを始めたり、愛らしい行動をしばらく見せてくれました。

【エゾアカガエル】
アカガエル科　蝦夷赤蛙
季節外れの暖かい朝、春と勘違いしたのか妙に水辺から鳴き声が聞こえていました。鳴き声は「キャララ…！」

○表紙の写真 上・下：エゾタヌキ

☆☆☆　温根内木道周辺で見られた野鳥（10/15～11/14）　☆☆☆

秋を通り過ぎて冬へ向かう季節。樹木の葉が完全に枯れ落ち見通しが効くようになったため、バードウォッチングにはもってこいです。繁殖期のような賑やかさはありませんが、定番のカラ類の混群や、渡りの途中の旅鳥、越冬しに来た冬鳥など、様々な種が入り混じる季節でもあります。ビジターセンターでは無料で双眼鏡の貸し出しをしております。

【ルリビタキ】　夏鳥
ヒタキ科　瑠璃鶲
青い尾羽が際立ちます。渡りの途中の若い個体と思われます。ほんの数分間の出会いでした。

【タンチョウ】　留鳥
ツル科　丹頂
鳴き交わしの声が湿原に響きます。草木が枯れ、姿を見る機会も多くなってきました。

【トビ】　留鳥
タカ科　鳶
動物の死体などを食べる、最も身近なタカ科の鳥。翼を広げると 1.5m ほどになり、かなりの大きさです。

○温根内木道周辺で観察された花・鳥（10/15～11/14）

花（和名は五十音順）＊外来種		6	タンチョウ	19	モズ	32	アカハラ
1	エゾゴマナ	7	ハイタカ	20	カケス	33	ツグミ
2	セイヨウタンポポ＊	8	ハイイロチュウヒ	21	ハシボソガラス	34	ルリビタキ
3	ドクゼリ	9	トビ	22	ハシブトガラス	35	ハクセキレイ
4	ヘラバヒメジョオン＊	10	オオワシ	23	ハシブトガラ	36	タヒバリ
5	ヤナギタウコギ	11	オジロワシ	24	シジュウカラ	37	アトリ
6	ヤマハハコ	12	ノスリ	25	ヒヨドリ	38	シメ
鳥（和名は日本鳥類目録第８版の順）		13	コゲラ	26	ウグイス	39	ベニマシコ
1	ヒシクイ	14	アカゲラ	27	エナガ	40	カワラヒワ
2	マガン	15	クマゲラ	28	ミソサザイ	41	マヒワ
3	オオハクチョウ	16	オオアカゲラ	29	ゴジュウカラ	42	カシラダカ
4	エゾライチョウ	17	ヤマゲラ	30	キバシリ	43	アオジ
5	アオバト	18	ハヤブサ	31	マミチャジナイ	44	オオジュリン

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

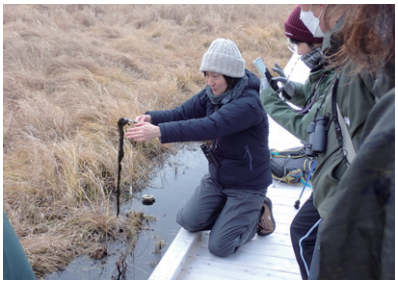
☆☆☆☆　自然ふれあい行事を開催しました　☆☆☆☆

○「秋の紅葉を見に行こう」10 月 19 日　参加者：16 名　講師：大山重治（森林インストラクター）

絶好の散策日和となったこの日、森林インストラクターの大山氏に講師をお願いし、紅葉の時期を迎えた温根内周辺の樹木をじっくり観察する会を行いました。紅葉は樹木の頂部から始まると大山氏が言われた通り、ビジターセンター裏のカラコギカエデの葉の色は実際にそのように変わっていることもよくわかりました。さらに歩いて行くと、モミジの葉が綺麗に赤く色づいており、遊歩道の反対側にあるイタヤカエデとの違いは、葉の縁にあるギザギザ（鋸歯）のある・なしであることも教えていただきました。ミヤマザクラの葉にはエゾヤマザクラと違い、葉にも冬芽にも毛があることなど、講師の用意した資料をもとに詳しく解説していただきました。最後に湿原内に入っていくと、ミズナラを中心とした丘陵地側の木々は黄色く黄葉し、優しく参加者を迎えてくれているようでした。

○「初冬の植物を見に行こう」11月9日　参加者：9名　講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

一見何もないような湿原で、植物がどうやって次の春を迎えようと準備しているのか、その生態を覗いてみる観察会を行いました。講師の加藤氏は、木道の脇から普段気に止まることのない植物を次々と見つけ出し、参加者に説明してくださいました。ハンノキ林が切れるあたりには水平方向に蔓を伸ばして分布域を広げるツルスゲを見出し、この植物が全面を覆いつくしているのがよく分かりました。ハンノキの枝先には既に来年に向けた雌雄の花芽が見られました。低層・高層湿原の中間的な性質の湿原をよく見ると、水面から頭を出すミズゴケの一種が見つかり、講師がその生態と機能を紹介してくれました。そのほかにも越冬芽をつけたタヌキモ、今年わずかに実をつけたサワシバなど、植物たちのしたたかに生きる姿に、参加者は感心していました。



☆☆☆☆　今年も木道の改修工事を実施しています　☆☆☆☆

今年も11月4日から、古くなった木道部分の改修工事を実施しています。右の図に示した赤線区間は通行できません。釧路市湿原展望台方面へも通り抜けできませんのでご注意ください。
皆様が気持ちよくご利用できるため、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

工事期間：令和7年11月4日
～令和8年3月19日（予定）

☆☆☆☆　イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です　☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月7日（日）10：00～12：00　〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料　〔場所〕温根内ビジターセンター

花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺の「かたち」にスポットを当てます。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪小麦粘土で楽しもう

〔日時〕12月13日（土）13：00～15：00〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕500円（材料費）　〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～防寒をしっかりと～

夏の暑さの反動でしょうか、10月・11月はこの時期にしては寒い日が続いている気がします。現在の釧路地方は最高気温が一桁台で、本州の真冬並みの寒さと思ってください。いつもより「一枚多めに」を心がけください。

月刊　温根内通信　No.350
発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター
〒085-1145　北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp
ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/
Facebook：温根内ビジターセンター　フェイスブック
開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）
休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）　入館無料